



## 私たちは一般の人？

### 委縮せず行動しよう！

6月16日共謀罪は成立しました。姑息な手段で。国会の議論を見ていると本当のことは話されず、「一般の人は関係ない」これが目くらしだったのだと思います。法案成立後の19日国会議事堂を囲む集会に野田九条の会から7人が参加しました。現在の「実行犯を取り締まる」から「計画段階での逮捕」と法体系を根本から変えてしまう、内面の自由を脅かす、監視社会になり市民の活動を委縮させる、等々多くの専門家や市民から指摘や反対があったのにもかかわらず成立させてしまったのはどうしてでしょう。世間の関心の薄さかもしれません。私たちの運動も見直さなければならぬかもしれません。

19日の集会での発言の中で、九条の会の呼びかけ人の一人故加藤周一さんの言葉が紹介されました。「私が世界の理不尽と戦う。これが私が私である証拠だから」と。これから安倍首相は5月3日に表明し

た「憲法に自衛隊を書き込む」ということに向かってどんどん進むでしょう。日々の生活に追われながらの行動は大変ですが、加藤さんの言葉を思い出して、一人でも戦う決意をしたいと思います。

こうしている間にも沖縄では辺野古の戦いがあり、オスプレイの不安に囲まれた高江があります。6月12日沖縄の元知事太田昌秀さんが亡くなりました。普天間基地の不安、地位協定のこと、辺野古新基地にはきっぱり拒否。平和の礎。いろいろ

思い出されます。この間私たちはどれだけ沖縄の人たちの思いを自分のものとして戦ってきたのか。そして今も。ご冥福をお祈りします。

野田・九条の会の毎月の例会では、今問題になっていることや憲法について毎回テーマを決めて議論しています。7月の例会のテーマは「安倍総理の自衛隊を九条に書き込む」孫崎享さんの予想を題材に議論する予定です。どうぞご参加ください。

#### 今月の予定

**7月8日(土)** 13:30~16:30  
野田・九条の会7月例会  
討論「自衛隊をどうする？安倍総理の9条改憲の予想」  
樺のホール多目的室 野田・九条の会  
タジョ

**7月9日(日)** 13:30~16:30  
DVD上映とディスカッション「自衛官とその家族」「ある文民警察官の死」  
南部梅郷公民館 南地域九条の会

**7月9日(日)** 17:00~18:00  
駅頭シール投票&チラシ配布  
「自衛隊をどうしたらいいと思いますか」  
梅郷駅西口 野田九・条の会

**7月19日(水)** 17:00~18:00  
駅頭シール投票&チラシ配布  
「自衛隊をどうしたらいいと思いますか」  
川間駅北口 野田・九条の会

**7月21日(金)** 13:30~15:30  
「ちょっと硬派なおしゃべりカフェ」憲法や暮らしのこと気軽にしゃべりませんか、コーヒーでも飲みながら。  
レストラン紙ふうせん 野田九・条の会

**7月29日(土)** 13:30~16:00  
DVD上映とディスカッション  
「誕生！日本国憲法～焼け跡に秘められた3つのドラマ～」  
中央公民館講座室 子どもの未来を語る会

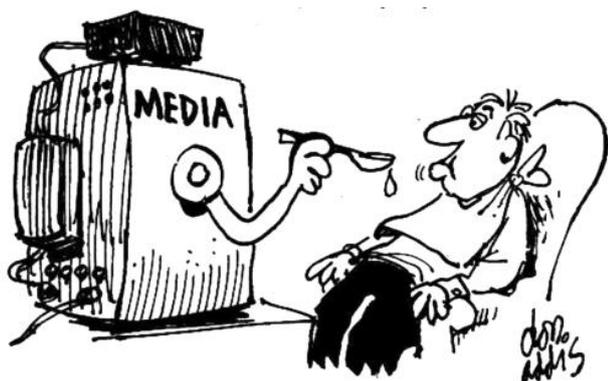


# 九条の眼 自衛隊は今の政権に任せられない

## 過去にない今の政権の本質

安倍政権が発足以来なんとなくスッキリしない気分がだらだらと続き、何とかしなければとの思いと苛立ちが増幅されています。特定秘密保護法、安保法制また共謀罪など国民を責めるものばかり成立させ、森友学園、加計学園問題などで恣意的に権力を使う。かつてこのような国民に苦行を強い、また大人げない醜さまで漂わせて利益誘導を図る政権はあったでしょうか。

特定秘密保護法で情報を隠し、マスコミを萎縮させる。政権批判する人々を萎えさせ相互に監視させる社会を作り出そうとする。安倍政権の目指すものに黙って従う人づくりであり、自らへ利益誘導できる国家体制を作ることに他ならないでしょう。その姿は70年前に反省し改めたはずでしたがこの四年で蘇らせてしまいました。



## 主権者一人ひとりが自衛隊を考える

忙しい日々の中、テレビの国会中継を見ていてこの政権は国民を意識していないなとつくづく感じます。森友・加計学園問題を始めとして首相答弁のあの頑なさは何なのだと。また政府要員は官僚の矜持で今は言えないだけなのかと。いやそうではない、独善と稚拙があらわな官邸の強権に怯える姿だと見ればこの政権の本質がここに現れているのだと理解した方が納得できます。

安倍政権は最後の仕上げに取り掛かっています。自衛隊の憲法への明文化です。彼らの企てにははっきりと視えています。まず、いか様にでも解釈できる条文を入れ、何れ軍事国家へと変貌を遂げられるようその礎を造ろうとしています。

これに気付く日本国民はこの企てを許さないでしょう。自衛隊を平和国家として活かす道は彼らの言う他にも有ることを私たちは主張しなければなりません。このことは将来を担う世代に対しての責任であり、自衛隊は主権者国民の理解が前提でなければなりません。私たちは日本国憲法の前文で不戦の平和国家を国際社会に誓いました。戦後70年の平穏な暮らしを踏まえ、自衛隊をどうするか主権者の立場として考えれば自ずと見出せるのではないのでしょうか。

## 「糖尿病と戦争」

戦前の治安維持法に連なると思えるテロ等準備罪法が国民の大多数の危惧にもかかわらず成立した。テロの防止の名のもとに、思想の監視という嫌な予感がする。

小生は戦中生まれの74歳。あの東京大空襲を逃れて福島との県境に近い最北端の北茨城の炭鉱町だった父の田舎に疎開した。オヤジは家族を養うため採炭夫として文字通り真っ黒になって働いた。何もない時代。食べ物に飢えていた時代。唯一の燃料だった石炭をカンテラさげてせっせと掘っていた。隣組制度で回覧板がまわされ、言わば監視と国への奉公が義務付けられた。誰もがおかしいと感じていても言い出せない時代だった。戦後の食料を求めてオヤジと買い出しをした常磐線の汽車の中で、ヤミ物資押収の警察に怯えた記憶は今でも思い出すことができる。小生は今糖尿病と闘っている。何もない時代にがむしゃらにものを詰め込んだ後遺症である。姉弟たちと争ってものを口にした生活習慣病のせいである。

ものと情報が溢れる今日、嫌な時代にだけは戻りたくない。選択は個人でできる。声は挙げられる。老人は若者に率先して戦争の無惨さと政治の無情さを声とエネルギーで発散すべきなのだと思う。そうすれば、我が糖尿病も克服できらるだろうと自戒している。

滑川 正雄